パーマネントコース報告

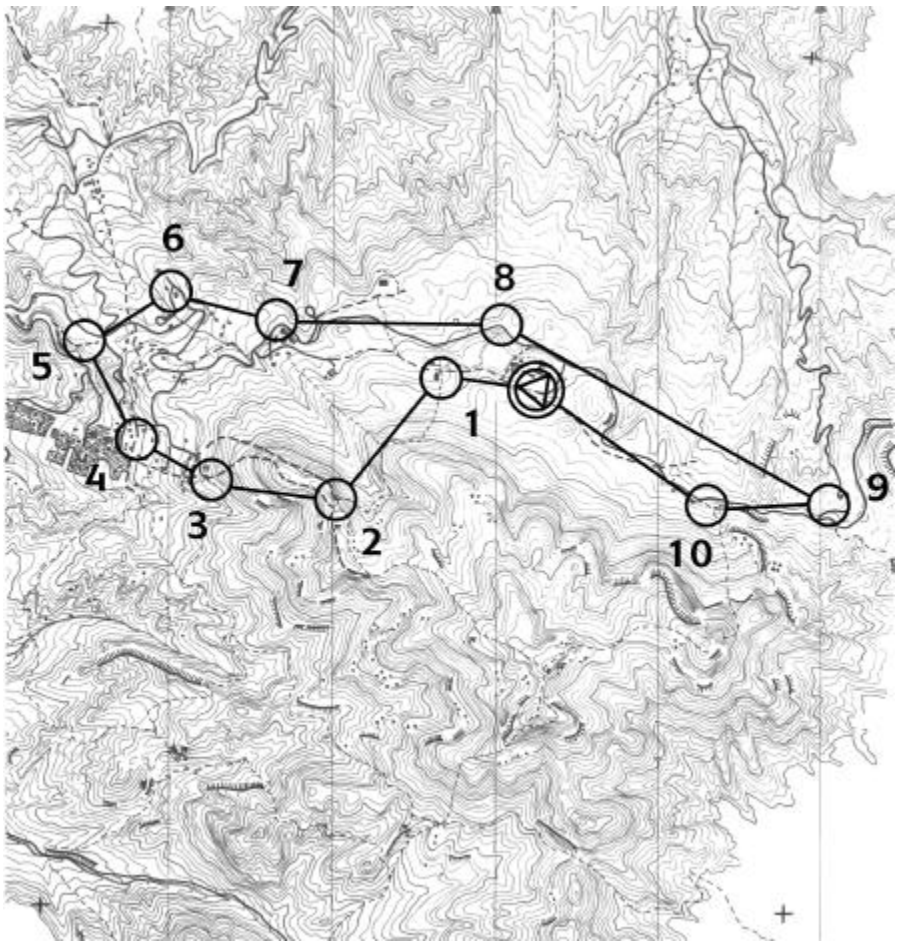
霊山 英彦山」に守られて

英彦山コース 福岡県添田町

大高竜亮

存在そのものが奇跡。九州・英彦山コースは山と神社を巡る美しいコースだった。

英彦山」コース 福岡県 No.23
JOA 公認 No.636 10km 10 ポスト



九州 ･福岡の未踏の地へ

広島に転居して１ヶ月目のゴールデンウィーク。残りわずかとなった未踏破コースが集中している九州に出かけました。九州探訪といえばこれまでは「遠征」といった感じの大旅行でしたが、広島から九州の玄関口小倉までは新幹線でわずか 45 分というご近所。気軽なぶらり旅感覚です。初日のこの日は小倉からレンタカーを借り、福岡県で唯一残していた「英彦山」コースに挑戦です。

駅名でもある「彦山」とコース名にもなっている山の名前の「英彦山」、いずれも読み方は「ひこさん」と同じです。

由来を調べてみると、古来、天照大神の御子である天忍穂耳命を御祭神として祀っていたことから「日の子の山＝日子山」と呼ばれていたそうです。霊山として信仰を集め､819 年に嵯峨天皇の詔により「日子」の字が「彦」に改められ、1729 年に院宣（上皇の命を受けた院司が奉書形式で発給する文書）により「英」の字を賜り現在に至っています。新潟の「弥彦山」、兵庫の「雪彦山」とともに日本三彦山として知られる存在です。

福岡県田川郡添田町と大分県中津市の境に位置する標高 1,200mの山で､周辺は耶馬日田英彦山国定公園にも指定されています。

パーマネントコースは英彦山の中腹を巡ります。スタート地点は英彦山青年の家。研修活動に盛んに利用されている施設のようで、この日も高校の新入学生らしき一団の姿がありました。

これまでも幾度となく九州を訪れているなか、福岡県でこのコースが最後になってしまったのは、管理状態が一切判明しなかったことが理由です。この日も回ってみなければ分からないという状況で現地に向かいました。

青年の家に事前確認をすると、マップは残っていたもののマスターが分からないとのことで、30 箇所に×を記したものが送られてきました。

このコース、昭和 46 年に福岡県 No.10 として開設されましたが、昭和 58 年 12 月に No.23 として新設扱いで整備された経緯があります。

いつもお世話になっている東京都在住の富田徹氏から頂いた旧コースのマスターが、新装コースと同一であることを JOA の資料で確認でき、ようやく歩いてみようという思いに至りました。×印がＰＣのマスターの 10 箇所をすべて含んでいることも、踏破可能な状態を維持しているのではとの期待を抱かせます。

ドキドキの管理状態

スタート地点には案内板もなく、青年の家の HP にもオリエンテーリングの紹介もないことから、すでに過去のものになっていることは確かのようです。それでも淡い期待を抱きつつ、11 時 18 分に歩き始めます。

演習林の、行き届いた杉林の中に続く道を西に向かい、鳥居の後ろに大きな岩石のある「亀彦王地神」の前までやってきます。英彦山への登山道が分岐しているところで、ポストも近くに立っているはずです。ここの状態が今後のコースを占うことになるため、期待と不安がないまぜになった気分で周囲を捜索すると、林の奥にポストらしきものが目に入ります。

妙に小さく、これが公認コースのものかと訝しく思いつつ近づいてみると、かつて秋田県「角館・白岩」コースや大分県「関崎半島」コースに使われていたような２面のみのポストで、すぐ横にはかつてのポストの支柱が横たわっていました。木製ながら記されていた記号が､JOA に保管されていたマップに記載されていたものと同じであることから、朽ちた従来のポストに替えて設置されたものと見て間違いないでしょう。期待が一気に膨らみ、第 2 ポストを目指します。

英彦山山頂へ続く道

道標には「観察路」と表示された遊歩道に従って、ぐいぐいと高度を稼げるこの区間がこのコースで最も OL らしいところ。整備状態は申し分なく、急勾配ながら快適に登山を楽しむことができるでしょう。青年の家から入手したマスターにはこの間に 1 箇所×印があるものの、現地では何も確認できません。PC を歩く限り、紛らわしいポストがないのは、かえってありがたい結果です。沢を 2 度通過し、尾根に到達すると第 2 ポストは簡単に見つかります。ここも古い支柱が残っていて、寄り添うように新しいポストが立てられていました。

この尾根を登ると英彦山の山頂へと通じるのですが、パーマネントコースはここが最高地点で、はやくも下ってしまいます。広々とした登山道を下っていくと、なにやら獣の警戒するような「ケーン」という遠吠えが聞こえてきます。なんだろうと思って杉林を眺めてみると、こげ茶色の毛並みの鹿がじっとこちらを見据えています。しばらくにらみ合いのような格好になり、その後猛烈な勢いで走り去っていきました。鹿との遭遇は 12 年前、北海道の音更コースで、まるで馬のようなエゾシカに出会って以来です。

観光地 ･英彦山神社を抜け

さらに下っていくと「英彦山神宮」に到着。05 年、参道に沿って 849mの区間を 15 分で結ぶ「英彦山スロープカー」が完成したことで、気軽に訪れることができるようになったこともあり「奉幣殿」には来訪者が数多く見られました。ポストはその上の分岐をわずかに右手に入った奥にあり、やや発見しにくくなっています。

龍の口から注ぎ出ている「天之分水神（あめのみくまりのかみ）」の龍神水で喉を潤し、第 4 ポストに向けて参道を下ります。灯篭の立ち並ぶ石段をくだり、道路を北に向かうとこのポストはあっさり見つかります。

これ以降は大半が舗装道路です。引き続き北を目指し、英彦山交差点から「花見ヶ岩公園」に入ります。小高い丘からの景色に恵まれた公園で、一面が壊れたポストを確認します。そして、見上げるとこれまでは支柱しか残っていなかった古いポストが頭を残したままやや傾いで立っていました。すっかり朽ちて記号の判読はできませんが、やはりこれこそが PC ポストだと改めて実感できる雰囲気を湛えています。

花見ヶ岩公園から望む英彦山

道路に戻り、英彦山交差点から東へと進みます。コース後半は国道 500 号線をひたすら歩くこととなります。上り勾配のヘアピンカーブから第 6 ポストは「ひこさんホテル和」までの出戻り。道が新しくなっているうえ、ポストも藪に隠れ気味のため発見に手間取ります。

「地蔵の坂」と名づけられたひっそりとした短絡ルートをたどり、再び国道に出ると間もなく第 7 ポストのあるカーブなのですが、かなり下ったところにあるため右往左往。マスターの位置が微妙に異なっていたこともあり、発見に最も手こずったポストとなりました。

到達に苦労したのは次の第 8 ポスト。手入れの行き届いた検定林を眺めつつ歩き、ポストの見える位置までは難なく着くことが出来るのですが、ここからがひと苦労。道から見えるのは 2 面しかないポストの裏側で記号は確認できません。しかしその手前には頑強なネットが張られており、進入が制限されています。こうしたネットがあってもどこかしら穴が開いていたり、乗り越えていくことができたりするものなのですが、ロープで築かれたこのネットは足をかけるとたわんでしまい、よじ登ることができません。強攻策も取れず、途方に暮れながら東に進んでいくと、小ぶりな岩が現れます。この岩を足がかりにようやくネットを越えることができ、事なきを得ました。ここにも古いポストの支柱が残されています。

第 9 ポストへは長い長いみちのり。スタート地点の青年の家の入口前を通り過ぎ、さらには第 10 ポストの前をも掠め去っていきます。国道を東へ東へ歩き、第 10 ポストを無理やり見ないように通過し、道路の分岐に到達します。左手に入り、下り坂を進むと、程なく左の奥に姿を見せるのは松の巨木。近寄ってみると、空洞になった木の中に引き抜かれて転がっているポストを発見しました。可愛そうな状態だったので、引き起こし、立てかけてから最終ポストに向かいます。

すでに目の前を通ってきているだけに、ただ引き返すだけのルートです。第 10 ポストがあるのは豊前坊と呼ばれる「高住神社」。入口にある鳥居付近にポストは立っています。ここは英彦山のもう 1 つの登山口ながら鬼門とされており、境内には古来天狗が祀られています。

最後は山伏が英彦山への峰入りに使ったという石畳の参道を歩き、青年の家に帰り着きます。

存在そのものが危惧されたコースでしたが、しっかりと手直しされています。PC だけでは飽き足らないクライマーは、英彦山登頂にもチャレンジしてみてはいかがでしょうか。四季それぞれの景色を楽しむことができるでしょう。

（2008 年 4 月 28 日 踏破）
（大高竜亮）